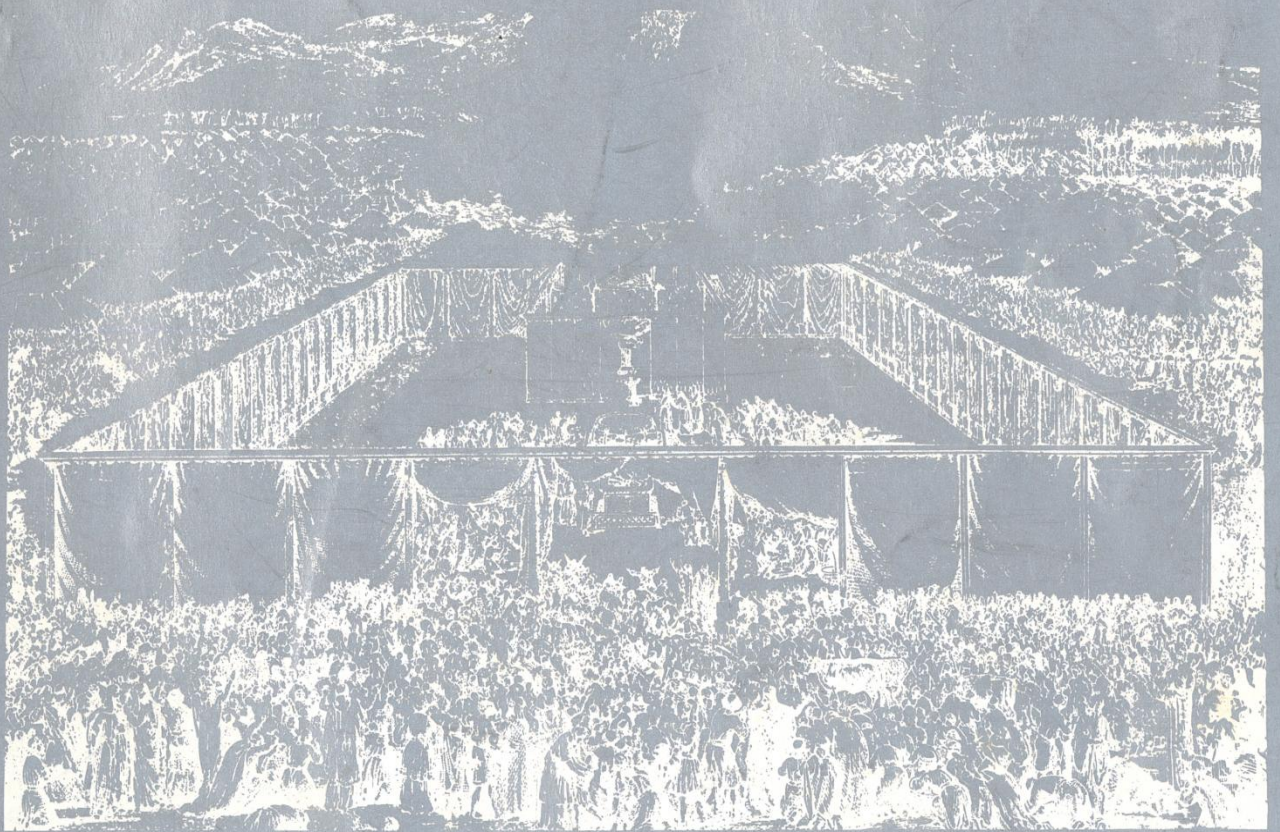




アンカー

Anchor



創刊号

金城 重博

今日の神の民に、この時代のための霊の食物を提供し、そして真理研究の刺激になるような刊行誌、「Anchor」の創刊を心から喜ぶものである。

「Anchor」の意味として、辞書によれば、次のようなものが挙げられている。(1) 錨 (2) 固定させるもの、頼みの綱、希望 (3) リレーの最終走者 (4) 野球チームで随一の強打者 (5) 軍防衛線の主要地点 などである。

ところで、初代キリスト教会のシンボルは、十字架ではなかった。魚、錨 (Anchor)、船、はと、しゅろの枝などが彼らのシンボルであったのである。キリスト教会のシンボルとして十字架が用いられるようになったのは、紀元300年、コンスタンチン帝国が、キリスト教を国教にしてから後のことである。

われわれにとってのアンカー (Anchor) について、少し考えてみたい。神は、預言者を通して90年ほど前に言われた。「すべての者の霊的な土台を徹底的に試して、ねじりとする嵐が起こりつつある。」(5 T p129) 「容赦なく吹きまくる嵐がやってくる。われわれは、それに対して備えているだろうか」(8 T p315) 聖公会の神学者パクストンが、『SDA神学の動揺』において指摘したように、背教のアルファから始まって、預言者を身震いさせた背教のオメガの嵐が、SDAの教会の中で、今、まさに吹きあれているのである。再臨信仰からそれて、それから離れ、あるいは、それを捨てて、破船に遭っている者が多い。教会にその名前をとどめてはいても、多くの者が、われわれの信仰の原点であるべき再臨信仰から押し流されつつあるのである。その再臨信仰の土台となり、大黒柱となった聖句はダニエル書8章14節である。

パウロは、再臨の約束を疑い、失望しかけていたヘブル人クリスチャンに宛てて、励ましの手紙をしたためた。その手紙は、今日の霊的ヘブル人である再臨信徒にとって、とりわけ重要な書簡である。パウロは言う。われわれの望みである錨は「幕の内にはいり行かせるものである」(ヘブル6:19) と。われわれの錨は、聖所に降ろされなければならないと言うのである。イエスは今、天の至聖所におられる。キリストが現在どこにおられ、何をしておられるかを本当の意味で知ることなしに、この時代に必要な信仰を働かせることはできないといわれている。(各時代の大争闘 下巻 p222)。にもかかわらず、1844年にイエスが聖所の第一の部屋から至

聖所に移られて、始められた最後の特別なあがないと裁きの働きに気づいていないために、弱り果てて意気そそうしている再臨信徒が多いのである。「聞かされていることを、いっそう強く心に留めねば流されてしまう」とパウロは言っているが、残念ながら今日の多くの再臨信徒は、聖所の清めと最後の特別なあがないのすばらしさ、さばきは永遠の福音であること、新しい永遠の契約を成就されるキリストの働き、そして本当の意味での、信仰による義認の福音を聞かされていないのが現状ではないだろうか。

今日、アドベンチストの教会の中において、様々な神学の嵐が吹きまくっている。「あらゆる種類の教理の嵐が吹きまくる」(5 T p80) ときがきたのである。しかし、「現代の真理にしっかり立って、望みをもって第二の幕の内(すなわち、至聖所)に魂の錨を降ろすならば、様々な偽りの教えや誤りの嵐は、われわれを動かすことはできない」のである。危機の時代に、神の民を堅く立たせる錨として、そのほかに、安息日、人間の性質、イエスのあかし(預言の霊)などが挙げられている(1 T p300)。今まさに、懐疑と不信は、これらの主題に対して向けられているのである。預言の霊に対する公然たる攻撃、それに対する軽視と不信、そしてあかしの無効にしようとする働きが教会の中で堂々と起こってきている。サタンの最後の欺瞞が熟するときがきているのである。(1 S M p48—日本語訳のコピーの注文可)

4 T 22ページには、次のようなステップが記されている。①証の書に対する神の民の信仰を弱めさせることがサタンの計画である。②われわれの信仰の重要点、われわれの立場を明らかにする柱(英文では複数)に関する懐疑が持ち込まれる。③聖書の言葉に対する疑いが、それにつづく。④破滅へと降下していく。これまで信じられてきた証が疑われ、捨てられるが、サタンはそこでとどまらない。彼は努力を二倍にして公然たる反逆を展開し、人々を破滅へと導くのである。

まさに現在、このステップが忠実にたどられているのを、教会の中に見ることができる。それによって教会から離れ、あるいは出されたりした牧師が、北米だけで数百人にのぼったとのことである。米国の友人から最近届いた手紙によると、彼の教会の牧師の説教がおかしくなったと思っていたら、ある日その牧師は、証の書を全部展示販売して、しばらくしたらペンテコステ教会に移ったとのことであった。

教会は以前からホワイト夫人を預言者と認めていることは周知の事実であると言

うかも知れない。いにしえのイスラエル人も、自分たちはアブラハムの子孫だと誇り、預言者の碑を建てたのである。しかし事實は、人々は預言者の言葉への反抗を繰り返していた。今日のSDAの教会は、同じ過ちを犯してはいないだろうか。眞実を伏せる教会歴史の神学者にではなく、預言者に語らしめよ。

われわれの教会内において神学上の嵐が吹きあれている今、あなたは錨をどこに降ろすだろうか。もし証に対する単純な信頼を失うならば、聖書の眞理から押し流されてしまうであろう。人間の性質について、また、キリストがおとりになった人性についてのこれまでの教えに対抗して、再臨前のこの地上では、神の律法を完全に守るなどということは不可能であると説いたオーストラリアのあるカンファランス総理は、安息日遵守の意義を失い、やがてSDA教会を去って、他の教派に移った事件は最近のことであった。

神学の嵐のみならず、道徳上の嵐も吹きまくっている。アメリカ人一般の離婚率51%に対して、SDA教会員の離婚率は49%とのことである（数字は5、6年前のもの）。われわれの学校におけるモラルの低下も指摘されている。

「サタンの畏が、イスラエルの子らがカナンの地にはいる直前に仕掛けられていたのとちょうど同じように、われわれの前にも仕掛けられている。われわれはあの民の歴史を繰り返しているのである。」

(5 T p160)

システムにおいて、どのような事が起こったか民数記25章をみていただきたい。これらの記録は、われわれのために記されているのである。「日は延び、すべての幻はむなしくなった」（エゼキエル12：21）ということわざが、現代の霊的イスラエルの中で現実となっている。教会の指導者が貪欲にのまれている。北米でのダボンポート事件によって、教会は80億円を損失したのである。これらはいったい何を語りかけているのだろうか。土地や金銭を所有させることによって、人々をこの世の思い煩いで夢中にさせるべく、サタンは働いているのである（初代文集 p432）。貪欲についての一章が、『初代文集』の最後の章の一つ手前にあることは興味深い。

ところで「アンカー」には、「リレーの最終ランナー」の意味もある。ヘブル11章には、各時代の信仰の走者が描かれているが、最後のテープを切るのは、われわれ再臨信徒なのである。われわれの世代が最後の世代となることができ、主は、この

われらの世代においでになることがお出来になるのだということが信じられない間は、主は来られないのである。全宇宙は、かたずをのんで、われわれ再臨信徒を見守っているのだ。

まもなく嵐は、絶頂に達するであろう。教会内外のしるしが、そのことを告げている。パチカンの行進を世界は大歓迎している。全世界の王達は、法王の前にぬかずにきつつある。法王の平和の笛の音に踊らされて、政治家も宗教家もどこへ導かれていくかも知らずに、その行進に加わっている。わが教会も、法王教に対する以前の警戒を解いて、平和ムードに酔っているのではないだろうか。

「嵐が迫ってくる時、第三天使の使命を信じると公言していながら真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、大部分その信仰を捨てて反対の側に加わる。彼らは世と結合し、その精神を抱くことによってほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして試験がくると、すぐに安易で一般受けのする側を選ぶのである。」

(各時代の争闘 下巻 p378)

ラオデキヤ教会は、嵐の前の静けさにだまされ、平和ムードの後に圧倒すべき事件がくることに気がついていない。

「特に若い人々の心が、世俗を愛する心で占められていることは驚くべき事実です。多くの者は神のあわれみがまだとどまっている貴い恩恵期間が一大休日でもあるかのように、そしてただ絶え間ない刺激の繰り返しの満足と、自分の享楽のためだけにこの世に生まれてきたかのようにふるまっています。」 (青年への使命 p369)

われわれの教会の青年達の姿が、ここに描かれている。

迫り来る危機を語る時、脅かしの信仰としてかたづけられやすい。しかし、真の信仰による義は、完全に恐れを取り除き、おのれの罪深さを認めさせて、人々をへりくだらせるのである。

「われわれの前にある苦悩と苦悶のときは、疲労と遅延と飢えに耐えることのできる信仰、すなわち激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。」 (各時代の争闘 下巻 p395) 「それだからわれわれには一つの経験、今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとし

ない経験が必要なのである。」

(同 p396)

しかし持つべき恐れもある。以下の引用文は持つべき恐れについて教えている。

「真理のために受ける迫害を恐れるのではない。・・・彼らは、自分達がすべての罪を悔い改めているかどうか、また自分達の中の何かのあやまちによって、『全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう』という救い主の約束を妨げるのではないか、ということを恐れるのである。もし彼らが許しの確証を持つことができるならば、拷問も死もいとはないであろう。しかし万一、許しに値しない者であることがわかって、自分自身の品性の欠陥のゆえに生命を失うようなことがあれば、それは神の聖なる御名を辱めることになってしまう。」

(各時代の争闘 下巻 p392)

終わりの時に「天の住民とすべての世界の前に、神の統治は正しく、神の律法は完全であることをデモンストレーションすること」(人類のあけぼの 上巻 p14)が、実は再臨信徒に期待されているのである。「ここに神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ち続ける聖徒の忍耐がある」との聖句は、この観点から読むとき、いっそうの意味をもって来る。罪なき完全な品性に到達することは、再臨の前に求められていることなのである。「しののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべきこと、旗を立てた軍勢のようなものはだれか。」

(雅歌 6:10)

「信仰による義」の真理が理解されると、サタンの力は打ち砕かれる。勝利は約束されているのである。(ローマ 16:20,イザヤ 41:14,15)そして、勝利は、人手によらずして切り出された石によるのである。

死んだ義人たちの霊は叫んでいる。「聖なる、まことなる主よ、いつまであなたは裁くことをなさらず、また地に住む者に対して、私達の血の報復をなさらないのですか」(黙示録 6:10)と。彼らはすでに休んでいる。しかし最後のホームランが打たれなければ、彼らはホームインできないのである。彼らは「約束のものは受けなかった。神は私達のために更に良いものをあらかじめ備えてくださっているので、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない」(ヘブル 11:39,40)

兄弟姉妹方、アンカーに目覚めていただきたい。主の聖なる御名のために。「あ

まつわが家ふるさとへ、こいし待てるイエスキミの、あまつわがやふるさとへ」と歌われている。時は、長すぎるほど延ばされているのである。何が、だれが、時を延ばしているのであろうか。われわれ神の民が、延ばしているのである。であるとすれば、どうすれば、われわれを待ち焦がれておられる花婿なるイエスに来ていただくことができるのだろうか。パウロのごとく、「主よ、あなたは私に何をしてほしいのですか」とへりくだって問うべき時なのである。（出エジプト 20:19, エレミヤ 31:31-34）

古代イスラエルの民にとって、7月10日の年に一度のあがないの日は特別な日であった。今日、もはや予型ではなく、実体なる真のあがないの日に生かされているわれらが、どのように生きるべく求められていかは、信仰によって天の至聖所に入り行くことによって、知ることができるのである。その至聖所において、われわれに対する神の御計画が示されるのである。 THE END



サタンのめざすところ

約6千年近くも続けられてきたキリストとサタンとの大争闘はまもなく終わる。そこでサタンはキリストが人間のためにしておられる働き（至聖所の働き）を妨げる努力を倍加し、魂を彼の畏の中に捕らえておこうとする。救い主の仲保のお働きが終わり、もはや罪のための犠牲が無くなってしまいう時まで、人々を悔い改めさせず、暗黒の中に閉じ込めておくことがサタンの目指すところである。

（各時代の争闘 下 P.260）

「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、
いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」

(ペテロ I 3:15)

質問：わたしたちの内から、罪が完全に取り除かれるのはいつですか。それは、再臨の前ですか。それとも、再臨のあとですか。

答え：ゼカリヤ3:1~5を読んでください。裁きの座にあって、サタンが大祭司ヨシユアを、彼の汚れた衣(罪、罪深い性質)のゆえに訴えています。ところが、御使い(キリスト)の命令によって、その汚れた衣は脱がされます。この聖句に対するホワイト夫人の説明が、国と指導者下巻p188-197と教会への勧告下巻p443-452にあります。それによれば、わたしたちの罪は、裁きのときにおいて、完全に取り除かれるということです。ところが残念ながら、罪が完全に取り除かれるのは、再臨のときであるというのが、わたしたちの教会においても大方の理解のようです。もしこの理解を受け入れるとすれば、エペソ5:27やヘブル9:28は、どのように読めばよいのでしょうか。

実はこの問題に対する解答にこそ、SDAの存在理由があるのです。ですから、ひとりひとりが祈りのうちに、注意深く研究することが求められているのではないのでしょうか。

この問題について光を投げかける聖句と預言の霊を、ほかにもいくつかご紹介します。

イザヤ4:3,4 「そして主が審判の霊と滅亡の(焼き尽くす—英語欽定訳)霊とをもって、シオンの娘らの汚れを洗い、エルサレムの血をその中から除き去られるとき、シオンに残る者、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあって、生命の書にしるされた者は聖なる者ととなえられる。」

審判の霊(裁き)と焼き尽くす霊(後の雨)は、神の民の心から、罪を完全に取り除くのです。

ダニエル8:14 「2300の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する。」

セブンスデー・アドベンチスト教会は、この聖句の上に立てられたといっても言い過ぎではありません。

ダニエル7:26 「しかし審判が行われ、彼の主権が奪われて、永遠に滅び絶やされ」

ここで言われている法王は、確かにローマ法王のことを述べていますが、もうひとりの法王のことを忘れてはなりません。それは、わたしたち自身の内に宿っている法王です。すなわち、自我、罪、神に対する敵意などです。

使徒行伝3:19、20 「だから自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは主の御前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。」

各時代の争闘下巻p382 「福音の大なる働きは、その開始に示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあつて秋の雨(前の雨)となつて成就した預言は、その終局において、春の雨(後の雨)となつて再び成就するのである。これが使徒ペテロが待望した『慰めの時』(英文では、refreshing が用いられており、これは、活気づけ、回復の意)である。彼は次のように言った。だから、調査審判のときに、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは主の御前から慰めの時がきて……イエスを神がつかわして下さるためである。」

(注)下線を引いた語は、この書が1888年に出版された際にはホワイト夫人自ら、入れられた語です。

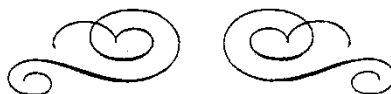
各時代の争闘下巻p397 「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあつて完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。……サタンは神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」

各時代の争闘下巻p140-141 「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしで立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行われ、悔い改めた罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。この働きは、黙示録14章の使命の中にさらに明瞭に示されている。この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。」

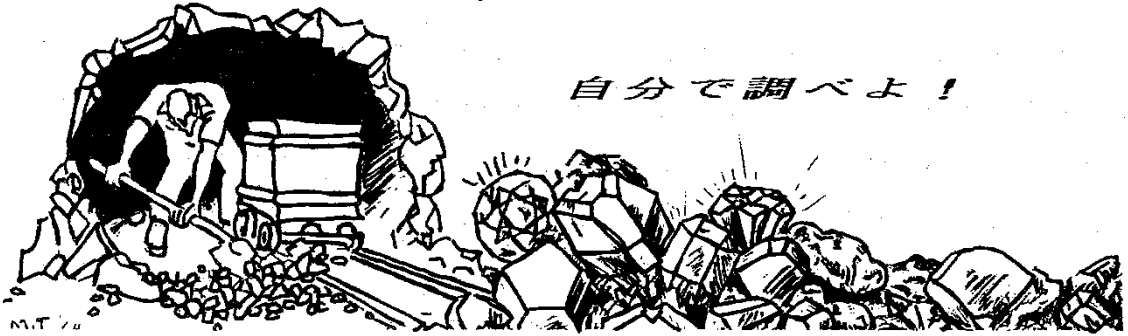
K. C

ヨシュアと御使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に、当てはまる。その時、残りの教会は、大きな試練と苦悩に陥る。・・・神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するときに、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」という命令が下される。そして、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」という励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ書3：8）キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。「清い帽子」が彼らの頭にかぶせられた。

(国と指導者 下 193,196)



NUGGETS, GEMS and JEWELS



自分で調べよ！

各時代の希望中巻p243 「神は、人々が不信を捨てるように強制されない。彼らの前には、光と闇、真理と誤謬がある。どちらを受け入れるかを決定するのは、彼ら自身である。人間の心には、善と悪とを区別する能力が授けられている。神は、人々が衝動的に決定しないで、聖句と聖句をくらべ、重要な証拠によって決定するように計画しておられる。……………」

今日も多くの者が、昔のユダヤ人と同じようにだまされている。宗教教師たちは、彼ら自身の理解と言い伝えの光に照らして聖書を読み、人々は、自分で聖書をさぐって真理が何であるかを自分で判断しようとしなない。彼らは、自分の判断を放棄して、自分の魂を指導者たちにまかせる。神のみことばを説き、これを教えることは、光をゆきわたらせるために神がお定めになった方法の一つである。しかしわれわれは、どんな人の教えも聖書に照らして調べてみなければならない。真理を知ってこれに従いたいとの望みをもって、聖書を祈りのうちに研究するものは、だれでも、神からの光を受ける。」

実物教訓p87 「わたしたちの救いは、聖書の中の真理を知ることにかかっている。わたしたちがこの知識を持つことは、神のみこころである。尊い聖書を、飢えかわくように、さぐり、調べなさい。ちょうど、鉱夫が金鉱を発見するために、地中深くさぐるように、神のことばを調べなさい。あなたの神との関係と、あなたに対する神のみこころとを確かめるまでは、決して探究をやめてはならないのである。」

実物教訓p90 「キリストの精神をもって、聖書を探究するものには、必ず報いが与えられる。人が幼児のようにすなおな態度で教えを受け、神に絶対的に服従するならば、神のことばの中に真理をみいだすことができる。人々が従順になるときに、神の政府の計画を理解することができるようになるのである。探究者の前には

天上の世界の美と栄光とがますます輝かしく開かれることであろう。その時、人類は、現在とは全く変わったものとなることであろう。というのは、真理の探究は、人間を高めるからである。贖罪、キリストの受肉、キリストの贖罪の犠牲などの神秘は、現在のような漠然としたものではなくなる。このような問題に対して、わたしたちは、更に理解を深めるばかりでなく、その真価をより高く評価することができるようになる。」

各時代の争闘下巻p358 「神の民には、偽りの教師の感化と暗黒の霊の欺瞞的な力に対する防壁として、聖書が指し示されている。サタンは、人が聖書の知識を得るのを妨げるためには、あらゆる手段を用いる。なぜなら、聖書の明白な言葉は、彼の欺瞞を暴露するからである。……………まもなく、最後の大いなる欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。反キリストがわれわれの目の前で、驚くべき業を行うのである。偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない。」

各時代の争闘下巻p361 「サタンはいつも、神の代わりに人間に注意を向けさせようと努力している。彼は、人々が自分で聖書を探って自分の義務を学ばないで、監督や牧師や神学者を案内者とするように導く。そうするとき、サタンはこれらの指導者たちの心を支配することによって、大衆を意のままに感化することができるのである。」

各時代の争闘下巻p364～5 「人は自分が正しいと思うことや、牧師が正しいということをするだけでは不十分である。自分の魂の救いにかかわる問題である以上、人は自分で聖書を探究しなければならない。彼の確信がどんなに強くても、牧師は何が真理かを知っているといくら彼が信頼していても、それは彼の土台とはならない。彼は天への旅路におけるすべての道標を示す地図を持っているのであるから、何事も憶測くによるべきではない。」

各時代の争闘下巻p165 「聖書から真理を学び、その岩に歩み、そして他人

にも自分の模範に従うように励ますことは、すべて理性のある者の第一にして最高の義務である。われわれは日々熱心に聖書を研究し、すべての思想を熟考し、聖句と聖句を対照すべきである。われわれは神の前で自分で答えるのであるから、神の助けによって自分で自分の考えを定めなければならない。」

GW (Gosple Workers)p303 「すべての魂は、悔恨と謙虚な心で神を仰がなければならない。そうすれば神は、その人を導き祝福することができる。われわれは御ことばの研究において、他の人々に頼ってはならない。我々の指導者たちのうちのある者は、この事に関してしばしば誤った立場をとった。そしてもし神がある使命を送られ、これら年長の指導者達が使命の前進のために道を開くのを待つならば、その使命は決して人々まで届かないであろう。」

TM (Testimonies to Ministers)p106~7 「……真理を拒まぬよう用心なさい。我々の民の持つ大いなる危険は、人を頼みとし肉なる者を自分の腕とすることである。自分自身で聖書を探究し、証拠を考慮する習慣を持たぬ者は指導者達を信用し、彼らの成す決定を受け入れる。こうしても、これらの指導的立場にある兄弟たちが神がその民に送られた使命を受け入れなければ、多くの者が使命そのものを拒むであろう。」

TMp437 「裁きの座において神は、その人が正直な心で偽りを信じたとか、または良心に忠実であったけれども誤謬を追い求めたという理由で、その人をとがめられるのではない。けれども、その人が真理をよく知る機会を怠ってしまったことをとがめられるのである。」

注：（下線は原文にはありません。）



M. S



池宮城 義浩

ある晩、私は一人の友人から次のような話を聞きました。

ある安息日学校での教課研究の時間に、クラスの司会者が訴えたそうです。「われわれは備えなければなりません、備えなければ。」とところがある方が、「何に備えるのですか」と問い返しました。一瞬クラスに沈黙が走りましたが、その後、ひとりの人が切り出しました。「やはり、再臨に備えるのではないのでしょうか」と。その発言から始まって、ディスカッションは盛り上がり、教課の時間も終わりに近づいたとき、一人の男性が立ち上がって語り始めたのです。「皆さん、これまで再臨に備えるということについていろいろと語り合いました。そして私自身も、いろいろと教えられました。私はこう思います。わたしたちは、イエス・キリストが再びこの地上においでになることを知っています。イエス様がわたしたちの救い主であることも知っています。しかし、本当に信じているのでしょうか。信仰をもって、本当に待ち臨んでいるのでしょうか。信じる、信じているとわたしたちは言うかもしれませんが、主はまもなく来られるということが、どれだけわたしたちの心に現実感となっているのでしょうか。正直いって、私自身は疑問です。」

この話を友人から聞かされたとき、私は思わず考え込んでしまいました。自分自身はどうなのであろうか。イエス様を信じているだろうか、愛しているだろうか。静かに自問してみました。もし私がイエス様を愛していないのであれば、愛してもいないお方を待ち臨むはずはありません。好きでない人を、どうして切に求めることができるのでしょうか。かえってその人から遠ざかってしまうにちがいありません。

私たちは、イエス様の再臨を否定はしないかもしれませんが。しかし否定しないことが、ほんとうに信じていることを意味するわけではないと思うのです。証の書の言葉を思い出します。

「この悪い僕べは、『主人の帰りがおそい』と心の中で思っている。彼は、キリストがおいでにならないとは言わない。彼は主の再臨という考えを嘲笑しない。しかし心の中で、またその行為と言葉によって、主の来臨が遅いと宣言する。彼は、ほかの人たちの心から、主はすみやかに

来られるという確信を追い出す。彼の影響で、人々の間に独断的で不注意な遅れが生じる人々の世俗心と麻痺状態がますますひどくなる。世俗的な欲望、墮落した思いが心を占領する。悪い僕は酔っぱらいと一緒に飲み食いし、世の人々と一緒になって快楽を求める。彼は仲間の僕たちを打ちたたいて、主人に忠実な者たちを責め、非難する。彼は世俗の人たちにまじる。彼は世俗の人と同じように罪を犯す。それは恐るべき同化作用である。世俗の人たちと一緒に、彼は畏に捕らえられる。『その僕の主人は思いがけない日、気がつかないときに帰ってきて彼を厳罰に処し、偽善者たちと同じ目にあわせるであろう。』」

(各時代の希望 下巻 P103-104)

私は、ここで言われている「悪い僕」ではないだろうか。もしそうならば、すぐに改めなければ……。私は自分の偽善者ぶりにいやげがさします。しかし皆さん、よく考えてみてください。私たちは、こんなみじめな思いをするためだけに、クリスチャンになったのではないはずです。

今述べたことは、私の心の片面です。弱く消極的な一面です。しかし私たちは、自分の落ち度を認め悔い改めながらも、積極的な考えを持ってキリストを全き頼みとして、前進していく必要があるのではないかと思います。

セブンスデー・アドベンチストには重大な使命が与えられています。それは、この時代のための特別なメッセージです。「彼らはいま特にあてはまる真理を宣べ伝えている。エノク、ノア、アブラハム、モーセがそれぞれの時代のために真理を宣べ伝えたように、キリストの僕たちはいまのこの世代に対する特別の警告を与えるのである。」(各時代の希望下巻 p103) アドベンチストには、過去のどの時代のクリスチャンにも委ねられたことのなかった特別なメッセージ、すなわち「生きて主を迎える」ためのメッセージが与えられているのです。それは、いまの時代に生きている私たちに与えられています。

「小羊の行く所へは、どこへでもついて行く」(黙示録14:4)と言われている人々は、地上から、生きている者の間から天に移される者たちで、「神と小羊とにささげられる初穂」(同)であると言われています。(各時代の争闘下巻 P430を参照) この初穂を起こし、「荒野に主の道を備え、砂漠にわれわれの神のための大路をまっすぐに」する働きが三天使の使命であり、これこそ、セブンスデー・アド

ベンチストに与えられている重大な使命なのです。

「神の民の働きは、まもなく目をくらますような力をもって臨もうとする未来に起こるべき事件に、人々を備えさせる働きなのである。」

(2 S M p142)

「われわれの働きは、神の大いなる日に立つことができるように、人々を備えさせることである。」 (6 T p384)

「神の僕ベとして、われわれは結合されたメツセージ、すなわち、三天使の使命を委ねられている。それは、来たるべき主に会うように人々を備えさせるのである。」 (9 T p98)

このような特別な使命が与えられているのです。私たちは、このことを十分に認識しているでしょうか。ひょっとすると、真理を枕にして眠りこけてしまっていないでしょうか。すばらしい真理を持っているということだけに満足してしまって、それを体得することをなおざりにしてはいないでしょうか。黙示録3章14-22節に、ラオデキヤ教会へのメッセージが記されていますが、私たちが知らず知らずのうちに陥っているかもしれない状態をここに見ることができます。

「あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、裸な者であることに気がついていない。」 (17節)

ラオデキヤの致命傷は、自分の欠点と現実を知らない愚かさに気がついていないことです。

「あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍くなり、その耳は聞こえにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである。」 (マタイ 13:14,15)

私たちは魔法にかけられてしまっていないでしょうか。サタンは徐々に、少しずつ、しかし確実に、私達の教会の中には入り込み、巧みな催眠術的方法によって、私たちの目をくらまそうとしているにちがいません。

「御言葉を信じる信仰によって、神の力に守られている者を除いて、この惑わしの隊列の中に巻き込まれる。人々は致命的な安心感へと急速に誘い込まれているので、神の怒りが降下して初めて目を覚ますのであ

「現代人の盲目は、言い表しようのないほど驚くべきものである。幾千の人々が神の御言葉を、信じる価値のないものとして拒み、サタンの惑わしを非常な確信をもって受け入れる。」 (同 p316)

敵の惑わしに対して、私たちの安全はいったいどこにあるのでしょうか。イエス様はおっしゃいました。「わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ 16:33)と。この小羊なるイエス様に、すべてをまかせて従って行くときに、信仰を働かせてこのお方に全く頼るときに、どうにも抵抗しがたい悪の惑わしの勢力に打ち勝つことができるのです。「今や、われらの神の救いと力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。……兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼に打ち勝ち」(黙示録 12:10,11)と記されています。そうです。キリストの功績のゆえに、恐れず前進することができるのです。

「また、神の力強い活動によって働く力が、私たち信じる者にとっていかに絶大なものであるか。神はその力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ、彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである。」 (エペソ 1:19-21)

この絶大な神の力に頼るとき、そのみ翼の影に宿るとき、無力である私たちを通して、全能なる神の力が現されるのです。

神様は、私たちが一日も早く、この絶大な神の力を受け、最後の重大使命である「生きて主を迎える」ためのメッセージを、福音として、大声で人々に語ることを望んでおられます。そして、私たちが目覚めて、ラオデキヤ状態から抜け出すときに、御言葉をすみやかに完結に至らしめることができになるのです。

「世に福音を伝えることによって、主の再臨を早めることが、われわれの力でできる。われわれは神の日の到来を待っているだけでなく、これを早めるのである。キリストの教会が命じられた働きを主がお定めになった通りにしていたら、全世界に対する警告はすでに終わって、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの地上においでになっていたのでは

主の来臨の日時を定めることは、私たちのなすべき分ではありません。「人の子が再びおいでになる正確な日時は神の奥義である。」（同 P100）からです。しかし、いちじくの木を見て悟りなさいと言われたイエス様は、私たちに目を覚ましているようにと求めておられます。

主の来られる日は、間近に迫っています。イエス様は、すでに準備ができておられます。ですから問題は私たちの側にあるのです。この世紀末に、あなたは何を望まれますか。この罪の世界がいつまでも続くことでしょうか。それとも罪の世界の歴史に終止符が打たれ、力と栄光とが豊かに満ちている御国を望まれますか。もし、私たちが本当に御国を望むのであれば、すでに準備のできておられる主は、すぐにでも来臨なさることがおできになるのではないのでしょうか。大いなる再臨の希望のメッセージが、私たちに与えられているのです。

何も持たない私たちが、すべてを持っておいでになるお方にひざまづきつつ、私たちに委ねられているメッセージが何であるかを教えていただきましょう。そうするとき、私たちは本当の意味で、立ち上がることができるにちがいありません。

THE END

広告

聖所の図解

★天の至聖所に生まれたともいえるアドベンチストにとっては必須！聖所の真理をあらゆる方面からわかりやすく説明している。

仰いで見て生きよ

★信仰による義認を簡潔にあらわしたパンフレット

ダニエルと黙示録

★ダニエルと黙示録の概要を的確にとらえ、中心思想をズバリ言い当てている。

開かれた門

★アドベンチスト特異の真理を、数多くの聖句また証の書によって立証している。この小冊子を用いて自分で研究することができる。

注：これらの資料はただ今作成中につき、すぐには発送することはできませんが、注文は承ります。

Editor's Note

アンカーを通して一人でも多くの求める魂の必要が満たされ、また、お互いの信仰が励まされ強められるならば、誌の発行される目的は達成できたと思っています。確かに、様々な教理の風が吹き荒れている私たちの教会の中において、真の魂の錨を持ちたいということは、アンカーに携わっているすべての者の、心からの願いです。どんな嵐に襲われても強く立ちえるために、セブンスデー・アドベンチストの信仰を再確認し、天の至聖所におられるキリストの内にアンカーを降ろしたいものです。

◆アンカーを読まれて、御意見、御感想、御質問等がありましたら、お聞かせください。皆様からのお便りのコーナーも、設けたいと思っております。お待ちしております。

〒住所：☎ 903-01

沖縄県西原町字小波津100番地
アンカーの係りまで

☎ 09889-2-3021

注：電話を御利用なさる方は、AM 06:00-07:00
もしくは、PM 10:00以降にかけてくださる
ようお願いいたします。尚、この電話番号
は6月以降変更いたしますのでその折りは、
また改めてお知らせします。

編集人：知念 かおり

発行人：知名 捷句

